



いのちを見つめる講話～生徒の感想～

5月31日（金）に校長講話を行い、全ての生徒の感想を読ませていただきました。私の話を真剣に聴き、たくさんの思いや考えを書いてくれてありがたく思います。その中には原稿枠をはみ出してまで書いてくれた人もいます。ある人は、過去の自分自身の辛い体験を綴（つづ）ってくれました。講話の内容を考えると、自分の家族のことを話そうかどうか、とても迷ったのですが、今は思い切って話をしてよかったなと思っています。

以下に何名かの感想を紹介します。字が多くて読みづらいと思いますが、それぞれが自分の思いを書いてくれています。ぜひ、頑張ってください！

1年 Mさん

今回の集会で心に残った言葉は「本当に大切なものは目には見えない」です。例えば、友情や愛情、仲間との絆などは、すごく大切なものなのに目には見えません。なので、この言葉には「たしかに」と思われました。

他に心に残った言葉は「日常の当たり前を大切にすること」です。世の中には歩けない、授業を受けられない、話せないなど私たちが普段よくしていることでもできない子たちがたくさんいます。そう思えば、私たちが環境に恵まれて充実した毎日が送れるのは奇跡といっても過言ではないのかもしれないし、少しぜいたくなことなのかもしれません。

今日の校長先生の話聞いて命についても一度見つめなおすことができました。心に残った言葉をいつも心に留めておこうと思います。これからも楽しい日々を送ってみたいです。

「星の王子様」を書いた サン＝テグジュペリは言っています。「ものごとは心でしか見ることができない。大切なことは目には見えない」。講話では、この言葉を参考にしました。目に見えない「心遣い」や「まごころ」などをどうやって伝えていくか。そのこともとても大事です。みなさんならどうしますか？

2年 Oさん

今、元気に生きて、毎日楽しく思うことができているのは両親やその前のたくさんの先祖が、命をつなぐため、懸命に生きてきたからなのだと思えてきました。校長先生の話聞いて、小学生時代に亡くなった妹の友達や今年の冬に亡くなったペットのことを思い出しました。これから先もずっと一緒にと信じて大切にしてきたものが、突然消えてしまう悲しみは一言で言い表せない深いものでした。いつ命がなくなってしまうのか誰にも分からないので、自分の行動や言動に後悔を抱くことがないように、自分も家族も他人も大切にしていきたいです。

以前、母が「自分が傷つくことが少ない人は、人のことを傷つけている」と言っていたことがありました。私の行動を振り返ってみると、自分が楽しいからという理由で悪口を言ってしまうたり、周りに迷惑をかけたりしてしまったことがありました。たった一つの言葉や行動で人を追い詰めてしまうことがあるので、一つ一つの行動に責任を持てるようになります。

学級や学年を見てみると、「死ね」という言葉が聞こえてきたり、陰口を言い合っていたりすることがありました。それぞれの親が必死に産んだ人のことを悪く言うのは最低で絶対

にはいけないことだと思われました。常に命のありがたさを感じることは難しいけれど、今日のお話を思い出して、今生きていられることを忘れないようにします。

自分が大事にしてきたものが目の前からいなくなったときは、辛かったですよね。命はかけがえないものです。かけがえない命をもっている人の悪口を言うというのは、その人の親、その前の親、その前の前の親・・・。「命のリレー」をしてきたみんなを傷つけてしまうことになります。

3年 Sさん

今回の講話をとおして、改めていのちの大切さについて学ぶことができました。まず「シャボン玉」がいのちの歌であることを初めて知りました。いのちの歌であるということを知っていて、もう一度歌詞を振り返ると、とても切なく、野口雨情さんの悲しい気持ちが表れていると思いました。

また、校長先生の話にとっても衝撃を受けました。校長先生のお子さんが、生まれてすぐ亡くなられたことが、校長先生にとってどれほど悲しかったことを想像すると、自分までも悲しい気持ちになりました。この話をとおして、私が生きている毎日は、亡くなった誰かにとってとても生きたかった毎日なのだろうと思い、一日一日を無駄にせず大切に過ごしていこうと思いました。

中島みゆきさんの曲で「俱（とも）に走り出そう」という歌詞があり、みんなで支え合いながら生きていこうというメッセージが込められている気がして、とても勇気づけられました。また、大切なものは目に見えないという話にとっても共感しました。「愛」「命」など、本当に大事で私たちが生きていくために欠かせないものは目で確認できないと思いました。今日の講話から一日一日を大切に、命を何より大事にしていこうと思いました。とても考えさせられるお話でした。

もう、校長先生の講話を聴けなくなると思うと寂しい気持ちもありますが「いのちを見つめる講話」で、3年間たくさんのお話をさせていただきありがとうございました。

私が予想外だったのは、最後に流した中島みゆきさんのミュージックビデオをみなさんが食い入るように見て、聞いていたことです。みなさんにとっては世代が違う歌手なので、心配でしたが杞憂（きゆう）に終わりました。歌の力を再認識させられました。3年間、私の話を聞いてくれてありがとうございます！

3年 Nさん

いつも「大野一心」のプリントを読むのをとても楽しみにしています。仲がすごくいい家族なんだと思います。でも、今日の話を知って子どもを一人亡くしたのを知って、校長先生も家族もすごく悲しい思いをしたんだと思いました。亡くなった子供を校長先生の娘さんが心配そうに見ている写真を見て、泣きそうになりました。どんどん冷たくなっていく我が子を見るのはとても辛いことだと思いました。でも、その子どもは校長先生や家族への感謝の気持ちで生まれてきたり、声を出してくれたりしたんだと思います。

今日の話を知って自分が健康に生まれてきたことや家族と楽しく過ごせていることに感謝して生きていきたいです。あと、お母さんやお父さんからもらう愛情をしっかり受け止めて過ごしていきたいし、自分の命や友達を大切にしていきたいです。今日の話これから忘れずに振り返っていきたいです。「いのちを見つめる講話」をしてくださり、ありがとうございました。これからも「大野一心」のプリントの校長先生の話を読むのを楽しみにしています！

学校だよりを楽しみに見てもらって、ありがとうございます。「校長のひとりごと」のコーナーで家族のことをいろいろ書いていますが、家族は私にとってかけがえないものです。これからもいろいろな話題を書いていきますので、ぜひ読んでくださいね。